

みつぎ便り

135号
12月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成29年12月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

チェリーセージ

今回は、見次公園ボランティアグループとして、初めて登場した「チェリーセージ」について書いてみます。

バス通り沿いの歩道に沿った細長い花壇に植えてある赤い唇の形状をした小さな可憐な花がそれで、とても控えめな野草の様な自然な雰囲気をもった可愛い花です。

シソ科アサギリ属の植物で、サクラランボに似た甘い香りを発するハーブでアブラムシの害に強く、日向を好み水やりなどの



手間も余りかからず、育てやすい花のようです。

ただし、バッタが発生すると、葉をことごとく食い荒らすそうなので、公園に花をめでにいらつしやる皆さん、バッタを発見しましたら見次の会までご一報をお願いいたします。

なお、冬の寒さで地上部は枯れ死しても根っこが生きていれば春には毎年芽吹いて花を咲かせるそうで、ちよつと楽しみますね。
(安)

ヒヨドリジョウゴ

木々の葉が散り、冬支度をはじめていきます。冬枯れの中に赤い実を残す草木をよく見ることがあるとおもいます。

ヒヨドリジョウゴ(鴨上戸)は、山野に自生するナス科でツル性の植物です。前の年に茎から新しい枝を伸ばし、他の草木に絡まりながら枝分かれし二〜三m位になります。八月から九月に白い花を咲かせ秋に実を付けます。実はナンテン位の小さな球状で秋が深くなると、美しい紅色に熟します。
熟した実をヒヨドリが食べる



ことから、ヒヨドリジョウゴの名が付けられています。しかし、一説によると、鳥が実を口にくわえて、遊んでいる様子からとも言われています。

果実は有毒ですので、鳥のまねなどしないように気を付けてください。
鮮やかな紅色の実が冬に入っても残っていることが多く、見次公園では、集会所の北側斜面で見ることが出来ます。冬枯れによく似合う美しい光景を、是非足を運んで見てください。(淳)